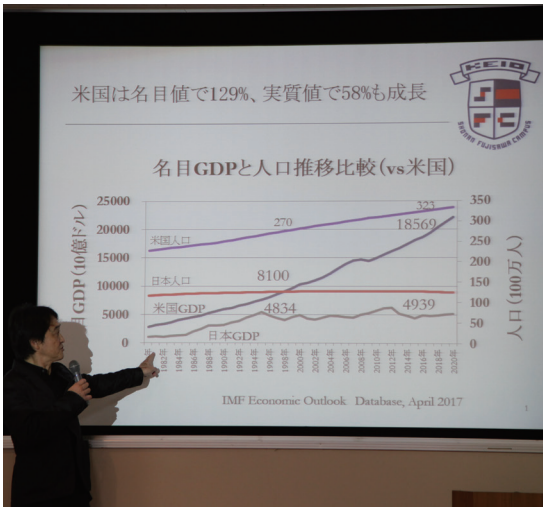
江戸川大学学生新聞
THE EDOGAWA TIMES

VOL.7 #22
2018年3月8日（木）

取材／編集：学生記者クラブ
発行：江戸川大学企画総務課

駒木祭講演

100人のエリートより 1人のオタクが活躍する時代



夏野 剛 さん
慶應義塾大学
政策・メディア研究科
特別招聘教授

江戸川大学駒木祭２日目、11月３日にメディアコミュニケーション学部情報文化学科主催で夏野剛さんが『ＩＣＴ革命による日本再生』について講演した。夏野さんは、ＮＴＴドコモのｉモード立ち上げに携わり、2001年には『ビジネスウィーク』誌の「世界のビジネスリーダー25人」に選ばれた。現在では、ドワンゴ、セガサミーHDなどの社外取締役を務めている。夏野さんの熱く、個性的な講演をライブ感覚でお届けしよう。（取材・文・撮影：日高那侑）

ＩＣＴ革命に取り残された日本

今から20年前は、携帯も、PCも、インターネットもなかったんです。そこからＩＣＴ革命がおこりテクノロジーが進化したんです。

ＷＥＢサービスとインターネットの検索とかそういうことで、仕事効率が高まりアウトプットが増える。より便利な道具を使って、より短い時間で同じ成果を出しましょう、あるいは同じ時間だったらアウトプットを増やしましょうという、これが生産性を上げるということです。

仕入れた値段に対して売った値段の差額を付加価値って言います。この付加価値を足したのがＧＤＰです。１９９６年から２０１６年まで日本の人口は1%増えています。それに対してGDPは2%しか増えていないんです。これだけテクノロジーが発達しているのにもかかわらず、一人当りのアウトプットがたいして変わっていないのは、どっかに大きな無駄があると言うことです。

アメリカは、この20年間で１２９%も成長している。ちなみにアメリカは人口が20%増えていますが、この人口ボーナス分を除いても１００%成長しています。国民ひとりあたりのアウトプットが倍になっていると言うことですね。でもアメリカという国は残業をしません。みんなさっさと帰って労働時間が増えているわけではないんです。こんなに差が付いたのはおかしいと思いませんか？

今や日本のＧＤＰ成長率はＯＥＣＤ加盟国中32位。先進7か国中6位。でもみなさんが生まれるちょっと前くらいまでは、最上位だったんですよ。20年間で日本だけが取り残されたんですよね。そして日本のこれからの20年間は人口減少の過程に入ります。人口が減少するとですね、普通にやっていると売上げは下がるので給料が下がるという時代に入るんです。だから今までのすべての常識を変えなければならないんです。

ところが日本だけが、20年前と役職体系が変わっていないんです。つまり年功序列とか終身雇用とか新卒一括採用とか、そんなことをやっているのは先進国で日本だけです。

さらに同じ釜の飯30年とかやっているとですね、効率が良くなるわけがありません。それはなぜか、同じ釜の飯30年の中の理屈だけで考えるからです。でも、ライバルは釜の飯の外に居るのです。

組織の力より個人の「想像と創造」

効率の革命以外にも検索の革命が起きました。ネット検索ができるようになり、どの会社に勤務しているか、どの大学を出たのかに関係なくプロになれる時代になりましたよってことを覚えておいてください。

つぎはソーシャル革命。ソーシャルは才能の発見装置なんです。この人こんなことまで知っているんだって Twitter で流れたり、インスタでこの子はこんなにセンスがいいんだってわかる。個人の力が発見されやすい環境をSNSは作っているんです。

これにより専門家の定義が変わっていきました。仕事の場でも、１００人のエリートよりも1人のオタクが勝っちゃうような時代になったんです。

なので皆さんには、やっていても苦にならないことを見つけてもらいたい。そしてそれをなるべくずっと持っていてください。それが仕事になった時に皆さんは絶対に成功します。

私は一億総オタクになればいいって思います。日本人は多様性社会じゃないって言われますが、じつは一人ひとりは趣味も違うしやることも感じることも違うんですよ。人種の差よりも個体差の方が大きいんです。

そして二つの「そうぞう」、イマジネイションの想像とクリエイションの創造。これらは、ＡＩにはできないことです。ＡＩは過去のデータを元にデータを出してくるので新しいことはまったく言ってきません。これからの日本を変えるためにも想像し創造しながら希望を持って挑戦していってください。